

(別紙1)

平成30年12月6日

只見町議会議長 齋藤 邦夫 様

広報広聴常任委員会
委員長 目黒 仁也

只見町議会報告会報告書

只見町議会基本条例に基づき実施した議会報告会について、下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時及び場所

平成30年11月11日(日)

午前10時00分～ 只見振興センター

午後 1時00分～ 朝日振興センター

午後 3時30分～ 小林公民館

2. 出席議員 齋藤邦夫議長、酒井右一副議長、鈴木征議員、藤田力議員、佐藤孝義議員、大塚純一郎議員、中野大徳議員、目黒仁也議員、山岸国夫議員、鈴木好行議員、目黒道人議員

3. 総括

前年の町民意見を踏まえ、事前の開催PRを強化すると共に、町の重点課題である「若者定住、子育てしやすいまちづくり」をテーマとした。また、開催は3地区3日間の開催を改め、日曜日1日とし3会場での開催を試みた。

今回の報告会では、少子化の中で子どもの遊ぶ環境が大きく変わったことへの不安。現在町が行なっている子育て広場などの子育て支援の継続を求める声も上がった。従来から保育料の減免などの経済的支援は行なってきたが、子育て環境の変化という新たな課題として捉えなければならない。他、従来もあつた空き家対策や中小農家への支援強化の意見が出されている。

なお、配布資料、各地区からの意見は以下のとおり。

- (1) 本会議における議決報告／平成30年4月から30年10月会議迄
- (2) 各常任委員会の活動報告／3常任委員会
- (3) 特別委員会の活動報告／決算特別委員会
- (4) 各地区意見

①只見振興センター(一般参加者8名、終了時間:午前11時40分)

- ・少子高齢化が進む中、民間企業の先行きが心配である。企業の健全化、持続できるまちづくりを望む。
- ・企業の存続には優秀な人材確保が必要だが、人材育成するにも多くの費用と時間がかかる。必要な環境づくりを求める。
- ・当町のような田舎の子どもの方が日常生活で歩いていない。すこやか発育事業等、子どもの健康づくりに欠かせない事業は継続してほしい。
- ・議会報告会などに託児所等を設置して、若い母親の意見を聞いてほしい。
- ・子どもを自然の中で安全に遊ばせる場所がない。
- ・シルバー人材センターを利用して子育て教育に役立てられないか。

- ・小学校の統合問題は、メリット・デメリットを考慮し、PTA・町・議会・地域全体で考えるべきだ。
- ・議員のなり手不足が心配だ。議員報酬等を見直して、優秀な人材が議員を目指すような環境づくりが必要だ。

②朝日振興センター（一般参加者4名、終了時間：午後2時20分）

- ・診療所の経営が赤字と聞いているが、今後の診療所運営を議会としてどう捉えているか。
- ・昔遊んでいた山や川に子どもの遊び場がない。安全に遊べる環境づくりをしてほしい。
- ・只見線復旧は踏切等の新設など、安全施設の充実を図ってほしい。
- ・空き家は各振興センターで調査をしているが、危険空き家が増えている。早急な対策を望む。また、町民には担当窓口がどこか分からない。
- ・小学校での英語教育が始まった影響で、学校行事に影響が出ている。楽しみにしている行事は減らさないでほしい。

③小林公民館（一般参加者10名、終了時間：午後5時03分）

- ・冬は只見スキー場に子どもを連れて行くが、幼児の休憩所、遊び場がない。また、町内の子どもたちにはリフト券を無料にできないか。
- ・夏の子どもの遊び場がない。河川に降りる場所も草木が繁っていて歩けない。環境整備を願う。
- ・移住者だが、補助金制度を知らずに来た。制度のPRが足りない。もっと心配りのできる行政であってほしい。
- ・「峠」が映画化されても河井継之助記念館等のPRがない。積極的な運動が必要だ。
- ・買い物支援バスの継続を望む。
- ・住民と町・議会の共存による町づくりが必要だ。振興センターを中心としたシステムの構築を望む。
- ・町長の施策・答弁に夢がない。職員を含め、積極的な行政を望む。
- ・小規模農家の育成や、高齢者農業に対する具体的な支援策を考えてほしい。

以上